

永明小5年1部『世界の人々の笑顔のために』 “届けよう、服のチカラ” プロジェクト

I もったいないばあさん<模造紙①>

まず最初に私たちは、道徳の時間にもったいないばあさんの「考えよう世界のこと」を読みました。世界の9才の子ども10人が登場しました。その子どもたちがどんなふうに生活しているのか書かれている本です。

この本の中に、アハミドくんというスーダンの男の子が出てきました。突然、家に兵隊がやってきて、お父さんは銃で撃たれ、お兄さんは兵士にされるために連れて行かれてしまいました。アハミドくんは、お母さんと2人で着の身着のまま、となりの国の難民キャンプに逃げたのです。難民キャンプでは、みんなおなかをすかせているし、病気の人もありました。着替える服もない人がほとんどでした。

地雷を踏んで片足を失ってしまった子。一日中働かなければご飯が食べられない子。戦争に行かされている子がいました。出てきた子たちは、ほぼ全員が学校に行けないので、かわいそうだと思います。

私たち日本人は、毎日食べ物があり、学校に行けて、着る服もちゃんとあります。でも、この広い世界の約半分の国の人たちは、着る服も1枚か2枚くらいしかない、まずしい人がいます。それに比べたら、私たちは、どんなに幸せなのでしょう。



『もったいないばあさん』のお話を聞いて、「どうしたら貧しい人たちに協力できるだろうか」を考えました。たくまくんが、「お父さんとユニクロに行ったとき、服の回収ボックスが置いてあって、困っている人に送っているらしい。」と話してくれました。

このことから、いらなくなった服を集めると、困っている人が助かるのかもしれないと思いました。また、この活動ならば、いらなくなった物を集めるので、お金がかからないので、自分たちでもできそう。ということになりました。



II 梅本さんの出張授業<模造紙②>

困っている人のために何が出来るか考えていた私たちは、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに出会いました。ユニクロとGUが行っているこのプロジェクトに応募しました。そして、6月22日に東京からGUの梅本先生に来ていただき、出張授業を受けました。

<演技…梅本さん>

「皆さんこれから合い言葉を教えます。それは、「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」です。それでは、皆さんも一緒に、せーの！ 「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」

この言葉を言うと自然と、口元が上がって笑顔になります。もう一回言ってみましょう。せーの！ 「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」



梅本さんの授業の最初にこの笑顔の大切さを教わりました。

この世界には、今ぼくたちがくらしているようにはくさせない人たちが6500万人以上いることがわかりました。ぼくたちのようにくさせない人たちを笑顔にしたいから、子ども服を集めたいと思いました。



授業後に私たちははいてもたってもいられずに、2時間目の休み時間に、早速、回収ボックス作り始めました。また、回収を呼びかけるポスターを作る人もいました。回収に向けて、人に呼びかける通知を作る人や校内放送のアナウンスを考える人もいました。

こうして、私たちは世界のみんを笑顔にするために動き出しました。



私たちの世界の子供たちを笑顔にするために難民についても学習しました。

これは、UNHCR 国連難民高等弁務官事務所の冊子です。難民は大きく分けて2つに分けられます。戦争や内戦が起きたり、宗教や人種、政治的な意見がちがうことによる迫害などが原因で、家を追われ、他の国に逃れた人たちのことを「難民」といいます。また、難民と同じ理由で家を追われ、自分の国の別の地域で避難をしている人たちのことを「国内避難民」といいます。



今テレビに映っている世界地図で赤く塗られているところは、難民や国内避難民がいて、ユニクロが服を届けているところです。世界の半分位の国に、難民や国内避難民がいることがわかります。

UNHCR は、難民や国内避難民などを国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて活動をしています。

今までユニクロは、この UNHCR や他の団体と一緒に回収した服を届けました。送り届けた枚数は、3029万枚です。

自由白地図-世界



シリア難民のジハンさんは…
(右の文章から抜粋して発表) →



シリア難民

ジハン / 34歳

「子どもに教育を」、 届かない母の願い

ジハンは、家事をするのも買い物をするのも、7歳の長男の手助けが欠かせません。彼女は目がほとんど見えないのです。

シリアから、船で地中海を渡ったジハン一家、8時間かけてトルコに渡る予定が、45時間も船に揺られた末、ギリシャに到着しました。命の保証のない脱出でしたが、家族の命を守るには、そうするしかなかったのです。

シリアにいた頃、ジハンは公務員として働き、夫のアシュラフは大学に勤めていました。二人とも、子どもたちの教育に、たいへん熱心でした。難民となった今、ジハンは自分の左目が失明の危機にあるなかで、子どもたちの教育を、何よりも心配しています。「この状況を誰かが理解してくれるのではないかと、ここまで逃げてきたけれど、そんな人はほんの一握りだった」と、彼女は悲しそうに話します。

※シナリオがほぼ完成していた前々日、「どうしても、難民について学習したことを発表に入れたい」という思いをもった児童たちが、UNHCRの冊子『この人はなぜ? いま、にほんからできること』やユニクロの冊子『服のチカラ』、および自宅でインターネットで調べてきたことをまとめ、発表した。

Ⅲ プール参観中の回収<模造紙③>



<模造紙をさす>

1学期に子ども服回収の準備を進め、2学期に集め始めました。8月末のプール参観に来るお家の方に、いらなくなった子ども服を集めて持ってきてもらうようにしました。

まず、全校の家庭に『子ども服回収のお願い』のプリントを配りました。子ども服回収のお願いを伝えて、プリント配布をしました。

回収するボックスは、ダンボールと色画用紙を使って作りました。



<ボックスを見せて>

ボックス作りで大変だったのは、画用紙をはること、大きな衝撃でも壊れないようにしたこと、キャラクターを考えることでした。

夏休み明け、回収ボックスをプールサイドに置いて集めました。服が600枚ほど集まり、とてもびっくりしました。

Ⅳ 全校から回収 10月中旬～11月22日<模造紙④>

私たちはプール参観の回収だけでは、難民の人たちに届けるには、まだまだ足りないと思いました。そこで、全校にプリントを配り、ポスターを掲示して、10月中旬から11月22日まで、子ども服を集めるよびかけをしました。



朝の時間に昇降口に交替で立ち、5年1部の教室の前にも回収ボックスを置き、難民の人たちのために、たくさんの子どもの服を回収しました。

それでは、回収の様子を再現してみます。

<演技>

当番「子ども服の回収をしています。ご協力お願いします。」

4年生「子ども服を持ってきました。お願いします。」

当番「ご協力、ありがとうございます。」

当番 ボックスをちょっと持ち上げて移動し、紙袋を出して見せて、



「今日はこれだけ集められました。」→全員で拍手

このようにして、多くの方が協力してくれたので、たくさん服を回収することができました。

もし自分が難民になっておなかいっぱい食べられず友だちとも会えず、おびえてくらすことになると思うと、こわいし、悲しいし、つらいし、大変だと思いました。たくさん服が送られてきたら、きっとみんな笑顔になるだろうと思いました。だから、回収ボックス作りや回収するためのポスター作りをがんばり、当番もがんばることができました。

平成30年10月12日
全校のみなさんへ

子ども服回収について のお願い

5年1部一岡

5年1部からのお願いです。私達は「届けよう服のキッズプロジェクト」の特別授業を受けました。授業を受けて私達は、子ども服が不足している国にいて困っている人たちがたくさんいることを知りました。世界には、みんなの人達がたくさんいます。その人達のおおきな心で、たくさん服を学校内で集めようと思います。

前回は、プール参観での服集めで、2番392枚、3番206枚、4番10枚、5番13枚、合計601枚たくさん服が集まりました。ご協力ありがとうございました。

これからさらに、10月15日～11月22日まで校内でボックスをせ、集めます。ご協力お願いします。回収場所は、1階は西口のこうろ、東口のこうろに1つずつ、2階は3階に1つずつ、合計4カ所です。

集める服のサイズは、赤ちゃんサイズ～160cmまでです。小物や下着は集めません。洗剤を洗って乾燥させた服を集めたいです。朝7:45～8:10の頃です。みんなの服を集めてくれる人がたくさんいます。みんなの服を集めてくれる人がたくさんいます。みんなの服を集めてくれる人がたくさんいます。みんなの服を集めてくれる人がたくさんいます。ご協力のお願いです。

V 校外から回収 ～11月22日〈模造紙⑤〉



私たちは難民に関する本を読んで、もっとたくさんの服を回収したいと思いました。なので、保育園や習い事などの場所で服を回収することにしました。

まず、園長先生や指導者の先生にお願いをして、服を回収しました。

〈模造紙をさす〉

このようなプリントを作って

配ったりもしました。

集めさせていただいた場所は、聖母幼稚園、ちの保育園、中央保育園

ひとまちプラザ、0・1・2・3、本町公民館

習い事では、バレーボールチーム「茅野ウイングス」、

ダンスグループ「ジェイダ」です。

そのようにして、校外でも子ども服を回収しました。

あまり集まらないだろうと思っていたけれど、とてもたくさん集まりました。うれしかったです。



VI ユニクロ茅野店にて回収 11月11日(日)

〈模造紙⑤〉

11月11日にユニクロ茅野店でも服を回収させてもらうことが決まりました。その日に向けて、ユニクロにはってもらったポスターを作りました。また、チラシを作って、チラシ配りをする事になりました。1200枚ほどのチラシを印刷し、みんなで手分けして色ぬりをしました。

当日は行かれないメンバーで、看板作りをしました。たくさん子ども服が集まるといいなと思いました。



子ども服回収のお知らせ

永明小学校5年1部では「届けよう服のチカラプロジェクト」の特別授業を受けました。授業を受けて、私は子ども服が不足している人達がたくさんいることを知りました。世界には貧乏の人達がたくさんいます。その人達のために喜んで空た子ども服を集めたいと思います。たくさん服を集めて貧乏の人達を笑顔にしたいです。地域のおみなさんにも協力していただきたく思います。

回収する服のサイズ 赤ちゃんサイズ～160cm

回収する時間 午前10:00～午後5:00(雨天決行)

回収場所 ユニクロ茅野店

回収しない物 下着、小物、ぼうし、水着等

回収する日 11月11日(日)

前日の11月10日に、西友横内店に行き、女子7人でチラシ配りをしました。

〈演技〉 「永明小5年1部です。いらなくなった子ども服を明日ユニクロで回収します。ご協力、お願いします。」と言いながら、チラシを手渡す。

1時間半くらい配って、50枚ほどを手渡すことができました。よく町中でチラシ配りをしてる人がいますが、実際に自分が体験してみると結構つらい仕事だということがわかりました。

北杜市から来ていた親子の方に、チラシを渡して説明をしました。「とてもいい活動をしていますね。」と声をかけてくれました。私は気がつきました。「みなさんは難民の人たちを助けてあげたいという気持ちがあるけれど、どう助けてあげたらいいのかわからないんだ。」ということ。なので「服のチカラ」プロジェクトなどの活動をもっと広めて、いろいろな人に知ってもらいたいです。そうしたら、もっと多くの難民が笑顔になると思います。

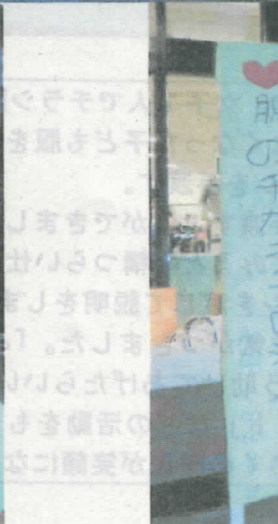
11月11日、ユニクロ茅野店で回収をしました。
ぼくは、自動ドアを入ったところで来られたお客さんに子ども服回収について説明しました。
<ポスターを持って実演>

「ぼくたちは永明小学校の5年1部です。世界には、難民となって毎日の着る物にも困っている方が6万5千人くらいいます。その半分が子どもたちです。3万人をこえる、困っている子どもたちに服を送ることで、少しでも笑顔になってもらいたいと思って、今まで服を回収してきました。ご協力をよろしくお願いいたします。」

ぼくはチラシを配りました。チラシは少し大胆に、かつちゃんとわかりやすく説明できるように渡しました。チラシを渡すコツがわかりました。

ユニクロでポスターを見たりチラシを受け取ったりして、子ども服を届けてくださった方が大勢いました。中でも、「昨日、西友で目をキラキラさせた女の子からチラシを受け取りました。とても素敵な活動なので、少しでも協力できればと思って、持ってきました。」とおっしゃった女性の自動車には、何と大小合わせて13箱のダンボールにいっぱい子ども服が詰められていました。

西友にチラシを配りに行ってよかったと思いました。そして、みんなで取り組んできた活動が多くの人々の心を動かしていることもわかりました。



VII 子ども服発送 11月28日(水)、30日(金)

<模造紙⑥>

今まで回収してきた子ども服を11月中に発送するので、みんなで協力して仕分けを行いました。総合の時間だけではなく、朝や2時間目の休み時間にも、集まった子ども服を数えて箱詰めをしました。係は決まっていなくても、自分たちで気づいて動き出している友だちがいました。「わたしも手伝わせて」「一緒にやろう」と声をかけ合い、その輪が大きくなっていきました。

<子ども服仕分けの演技>

「ズボン1、赤ちゃん1、…」仕分けをして箱詰めする人とメモをとる人

<ダンボール箱を持ち上げて>

この大きさのダンボール箱に詰めていきました。いっぱいになったダンボール箱を放送室のスタジオに運びました。箱の数を数えたら、40箱ありました。みんなでつめた服には、思いが込めてあるので、なん民の人に服が届き、その人たちを笑顔にすることができると信じています。

ぼくたちが集めた服を難民の人たちが喜んで着てくれたら、もっとうれしいです。全員で協力して、難民の人たちのためにがんばりました。

大体つめ終わったところで、子ども服の集計をしました。11月28日(水)までに合計4190枚の子ども服が集まりました。

今までに、服を持ってきてくれた人たちに感謝をしたいと思います。

私たちの活動に協力してくださった方が大勢いました。

※内訳 上着…1910枚、ズボン…1112枚、ハビーサイズ…1082枚、ワンピース…76枚

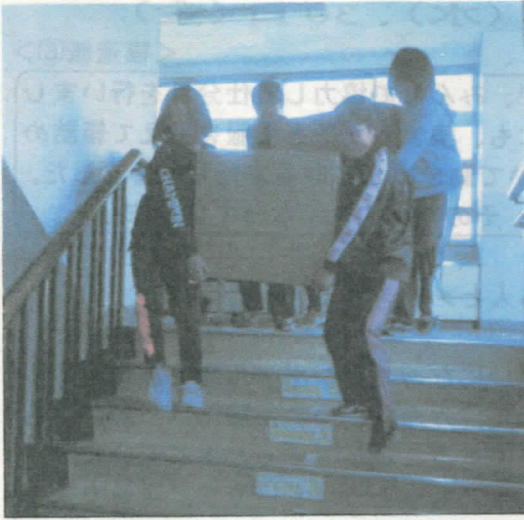
ダンボール箱を全部コミュニティールームにならべてみました。40箱のダンボールは迫力がありました。



<演技> 発送先の宛先カードをはり、ガムテープでふたをしました。

<演技> ダンボール箱を玄関まで、みんなで協力して運びました。トラックに入れて、見送りました。

今までたくさんの人たちに協力してもらったことがわかりました。



11月30日はダンボール箱を送る最終日でした。残っていた服を詰めると、8箱になりました。28日に発送した分と合わせると、ダンボール箱48箱、子ども服は4596枚になりました。

協力してくださった方々にしっかりとお礼を伝えたいです。そして、服が難民や国内避難民の人たちに届いて、着て笑顔になってほしいです。少しでも生活が豊かになったらいいと思います。

VIII お礼、学んだこと、今後のこと

1 学んだこと

このプロジェクトに参加して、一人ではできないことでも、みんなで協力することによって、大きいことができることが学びました。

2 お礼

校外でも子ども服回収をさせてもらい、たくさんの服を集めることができました。校外での回収で、一気に服が多く集まり、仕分けが大変でした。けれど、その分、難民の人たちに服を届けられることができました。

たくさんの服を届けられたのは、みなさんのおかげです。

3 今後のこと

この活動が終わっても、ごはんは残さず食べ、家族や友だちを大切にしたいです。ユニクロに行く時には、大人の服でもいいので回収ボックスに入れたいです。そして、少しでも多く、難民の人たちに服を送り、笑顔届けたいです。

これからは、ちょっとずつでも世界中が笑顔で笑ってくらせるためにはどうしたらいいのかということを考えています。そして、実行するためには何が必要かということも考えて、より良くらしにしていきたいです。

子ども服を届けてくださった人たちみなさんに、感謝しています。ご協力ありがとうございました。

ちの保育園のみなさんへ

子ども服回収のお礼

永明小学校5年1部です。

私達が行っている「届けよう服の十カラ」プロジェクトへのご協力ありがとうございました。

7日間でとてもたくさんの赤ちゃんと～160cmまでの上着、スボン、ワンピースなどが集まりました。

本当にご協力ありがとうございました。

平成30年 11月16日

5年1部一同